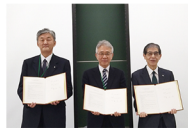




本学と松本大学及び札幌大学の三大学が包括連携協定を締結



地域課題を議論する学生交流も実施



本学（大久保幸夫学長）、松本大学（菅谷昭学長）及び札幌大学（大森義行学長）は、9月9日に包括的連携に関する協定を締結しました。同日、松本大学（長野県松本市）で調印式が行われ、三大学の学長が協定書に署名を行いました。三大学が包括的な連携のもと、協力関係を築き、教育力や研究力を基盤として、活力ある地域社会の形成と発展に寄与することを目的とします。

調印式後11日までの日程で、三大学の学生約20名が参加する研究会議も行われました。本学からは防災教育

を学ぶ児童学科3年（帖佐ゼミ）の4名の学生が参加。「地域防災」をテーマに、各地域の現状や課題を議論するグループワークや、松本市島内地区の公民館に場所を移して住民と意見交換を行い、最終日にグループ発表を行いました。

大久保学長は「今回の連携協定を締結することができて大変うれしく思っている。学生間交流を中心とした連携事業を実施し、共通のテーマについて互いに学びあって研究発表を行う新しい形の大学間連携が長く続き、地域貢献に資することを期待している」と話しています。



学生交流に参加して

「地域防災」について多方向から学ぶことができた。人前で自分の意見を堂々と述べるのが得意ではなかったが、他大学の学生と協力してプレゼン発表までやり遂げることができて自信になった。

羽嶋 由紗（児童学科3年，活水高等学校出身）



札幌大学と松本大学の学生と交流が深まり、各地域の防災について学ぶことができた。防災意識の低さを三地域の共通課題ととらえ、意識啓発の方法を議論し、資料作成やプレゼン発表も行った。

室屋 裕太（児童学科3年，松陽高等学校出身）

災害時に高齢者をいち早く避難させる松本市の取り組みは、鹿児島でも取り入れられるのではないかと。小学校の教員を目指しており、災害時に児童がスムーズに避難できるような防災訓練にも力を入れたい。

福満 祥（児童学科3年，国分高等学校出身）



松本大学は防災士の育成に取り組んでいて、初日に学生4組の実践的な取り組みの発表があった。災害時に貴重な情報源となるコミュニティFMの取り組みや保育園での防災教育など学ぶことが多かった。

田原 航介（児童学科3年，川内高等学校出身）



福祉専門職3団体の寄附講座を実施

テーマ：「福祉専門職の働き方」



福祉専門職3団体の寄附講座「福祉専門職の働き方」を、本学で初めて開講しました。これは、令和3年3月に締結した本学と福祉専門職3団体（鹿児島県社会福祉法人経営者協議会・公益社団法人鹿児島県社会福祉士会・一般社団法人鹿児島県精神保健福祉士協会）による連携協定に伴うものです。今年度は、1年生を対象とした「鹿

児島社会福祉入門」（担当：福祉社会学部 高橋信行教授）の講義に、3団体から講師を招き3回実施しました。

また、寄附講座の翌週は、高橋教授が振り返りの授業を行い、さらに理解を深める構成としました。学生は福祉のフィールドの広さを知るとともに、福祉専門職としての心構えを学ぶ機会となりました。

第1回は鶴田啓洋氏（一般社団法人鹿児島県精神保健福祉士協会 副会長・一般社団法人 Saa-Ya 代表理事）を講師に迎え、「福祉専門職としての価値を探る～障害者支援、ホームレス支援活動を通して～」をテーマに5月6日に実施。鶴田氏は自身の福祉との出会いや経験を振り返りながら、「ソーシャルワークとは、様々な生きづらさを抱えた人をまず受け止めること。そこから各分野の専門職と連携して困りごとを抱えた人を支援し、その社会を変えていくことがソーシャルワーカーの役割である」と、福祉専門職の在り方を学生へ熱く語りました。



第2回は6月17日に行われ、前田健吾氏（社会福祉法人南恵会・公益社団法人鹿児島県社会福祉士会所属）が「自己覚知」をキーワードに登壇。前田氏は、ハウスマーカーでの営業職を経て、大学院終了後、福祉の道へ。徳之島での居住支援分野における実際の相談ケース



から、離島ならではの支援体制のよさと難しさについて伝えました。前田氏は、「福祉の仕事において一番の資源は自分自身。『自分はなぜ福祉職に進みたいのか』、その答えにたどり着くために学生のうちから様々な経験や知識を蓄え、この職に就いた後も考え続けることが自己覚知を進めることに繋がる」と話しました。

第3回は7月15日に、山内義宣氏（社会福祉法人輪光福祉会理事・鹿児島県社会福祉法人経営者協議会所属）が、「福祉専門職の生き方 福祉専門職になる皆さまへ!」をテーマに登壇。高齢者は徐々に身の回りのことができなくなる不自由さを感じながらも、住み慣れた我が家であるべく迷惑をかけずに暮らしたいと思う方が多く、運営する施設の職員は、利用者にとって我が家の延長線のような、生きがいをもった暮らしを送ってもらえるよう様々な支援の工夫を行っていることを紹介。山内氏は、「福祉の仕事は『人と人との繋がり』が大切になることを心のどこかに留めてもらい、心豊かな福祉人の人生を送ってほしい」と話しました。



学生の感想（一部抜粋）

- ・自分のなりたいソーシャルワーカーが見えてきた。
- ・表面上の問題に注目するのではなく、その背景や構造を捉えて関連性を見つける姿勢が大切であることを学んだ。
- ・これからの時代にどのような取り組みや制度が求めら

- れているのか。ソーシャルワークの必要性を改めて感じることができた。
- ・専門的な知識だけでなく、相談者にとって何が一番重要で不安に思っているのかをくみ取り、先を見据えた支援を行うことが必要だと思った。